

# 特集



# 国際女性デーを知る

## 女性の生き方を考える日

毎年、3月8日は国際女性デー、女性の生き方を考える日と国連で定められた日です。現在、新聞やテレビなど多くのマスメディアでこの日に取り上げられるようになりました。しかしながら国際女性デーについて詳しく知る人は多くありません。そもそも何の日なのか、どうしてこの日になったのか、何をすべき日なのか、一緒に国際女性デーを紐解いていきましょう。

## 始まりはアメリカ、ニューヨーク

国際女性デーの起源は1908年3月8日、ニューヨークで約1万5000人の女性労働者が給与・待遇の改善と参政権を求めるデモを起こしたことです。当時、女性の地位は男性に比べ非常に低く、差別や不平等の解消、男性と同じ権利を求め多くの女性たちが声を上げ、運動を起こしていました。そんな中、1910年にデンマークのコペンハーゲンで行われた国際社会主義女性会議にて、女性の権利を求める運動に敬意を表し、国際的な性格を有する「女性の日」が制定されます。ここから多くの国で記念行事が行われ始めました。この時点ではまだ具体的な日付は定められていません。

- 1908 3.8 ニューヨークで約1万5000人の女性労働者が処遇改善及び参政権を求めデモ
- 1910 コペンハーゲンにて「女性の日」が制定
- 様々な国で記念事業が開催
- 1975 国際婦人年 国連により3月8日が国際女性デーに制定

女性の日は戦争に反対する日としての側面ももっていました。第一次世界大戦中の1913年、ロシアの女性たちは2月の最終日曜日(グレゴリオ暦で3月8日にあたる日)に平和運動の一環として記念事業を行いました。1917年、戦争が続く中、ロシアの女性は再び「パンと平和」を求め2月最終日曜日に抗議とストライキを決行。これは男性労働者、更には兵士を巻き込んだ大規模な蜂起となり、4日後、ロシア皇帝は退位し、暫定政府は女性に選挙権を認めました。

国際女性デーが3月8日と定められたのは1975年、国際婦人年にあたる年です。この年に国連により3月8日は国際女性デーと定められ以降、多くの国で記念行事が行われています。



## ミモザの由来はイタリア

国際女性デーはミモザの花がシンボルとなっていることが多くあります。それはなぜでしょうか。その由来はイタリアにありました。イタリアでは国際女性デーの日に女性に感謝を込めてミモザを送る風習があります。これはミモザが2月から3月にかけてヨーロッパの各地に咲く花であったことが理由です。これを受け多くの国でミモザを国際女性デーのシンボルとして取り扱うようになりました。



## 日本での国際女性デー

国際女性デーは女性の生き方を考える日として、女性の権利や政治・経済分野への参加の推進を目的としています。近年、日本では国際女性デーに合わせて多くのマスメディアでジェンダーに関する特集記事が組まれるようになりました。多くの企業や団体が記念事業を行うことも少なくありません。また、国では毎年3月8日に男女共同参画担当大臣が、メッセージを发出しています。2022年以降は内閣総理大臣もメッセージを发出し、「政府として、企業等における女性登用の加速化、仕事と家庭の両立支援策の充実、男女間の賃金格差の是正などの課題に、一丸となって取り組み、女性の活躍を全力で後押しします。」と、男女共同参画社会実現に向けた決意表明が行われています。

## 久留米市の取り組み

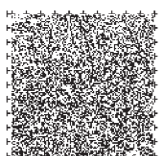
久留米市男女平等推進センターでは国際女性デーの取り組みの一環として、2022年3月に当時の在福岡米領事館広報担当領事ユキ・近藤・シャーさんを招いて、講演会を開きました。Respect for Diversity and Connect to the Future(多様性を尊重し未来につなぐ)と題し、女性活躍を推進し、多様性を尊重しながら、誰もが活躍できる職場や社会を作るために必要なことは何かについてお話いただきました。

以前は日本と同様に、女性議員が過少だったアメリカ。現在は女性副大統領登用など女性の政治参画が進んでいます。「女性が代表であるという存在に意味があり、言葉や文化が相違している人同士が関係性を築くことは重要です。」といった講師の言葉が胸に残っています。

また、市民団体の企画による「国際女性デーを考える ミモザの花を咲かせよう」も開催され、多くの方が男女平等への想いをメッセージカードに記していました。



ユキ・近藤・シャーさん



出典：内閣府男女共同参画局HP、国連広報センターHP 他